

Asia Indicators

発表日: 2022 年 9 月 16 日 (金)

インド、インフレ率は3ヶ月ぶりに7%超に加速 (Asia Weekly(9/12~9/16))

～韓国の失業率は統計開始以来最低となるも、労働市場への参加意欲の後退がそのけん引役に～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹 (TEL: 03-5221-4522)

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
9/12(月)	(インド) 7 月鉱工業生産(前年比)	+2.4%	+4.3%	+12.7%
	8 月消費者物価(前年比)	+7.0%	+6.9%	+6.7%
9/14(水)	(インド) 8 月輸出(前年比)	+1.6%	--	+2.1%
	8 月輸入(前年比)	+37.3%	--	+43.6%
9/15(木)	(インドネシア) 8 月輸出(前年比)	+30.15%	+19.19%	+31.98%
	8 月輸入(前年比)	+32.81%	+30.60%	+39.85%
9/16(金)	(韓国) 8 月失業率(季調済)	2.5%	--	2.9%
	(シンガポール) 8 月非石油輸出(前年比)	+11.4%	+8.3%	+7.0%
	(中国) 8 月鉱工業生産(前年比)	+4.2%	+3.8%	+3.8%
	8 月小売売上高(前年比)	+5.4%	+3.5%	+2.7%
	8 月固定資産投資(年初来前年比)	+5.8%	+5.5%	+5.7%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[インド]～外需に不透明感が強まる一方、国内景気の堅調さを反映してインフレ率は3ヶ月ぶりに7%を上回る～

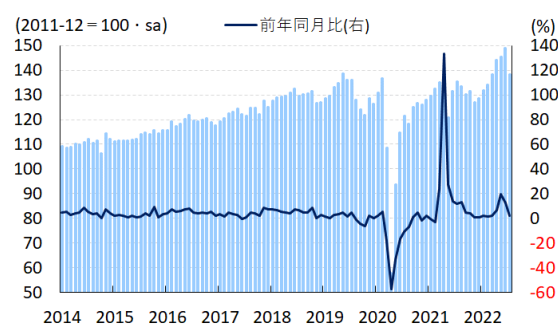
12 日に発表された 7 月の鉱工業生産は前年同月比+2.4%となり、前月（同+12.7%）から伸びが鈍化した。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は 8 ヶ月ぶりの減少に転じており、中期的な基調も拡大ペースが急速に鈍化するなど頭打ちの様相を強めている。一足早く頭打ちの動きをみせた鉱業部門の生産は一段と下振れしているほか、製造業の生産も鈍化するなど幅広い分野で生産に下押し圧力が掛かっている。製造業についても、耐久財及び非耐久財問わず幅広く消費財の生産が下振れしている上、中間財や資本財などあらゆる生産が下振れしており、中国による『ウィズ・コロナ』戦略の拘泥によるサプライチェーンの混乱に加え、ウクライナ情勢の悪化による供給不安を受けた幅広い商品市況の上振れの動きも重なり、生産活動に幅広く悪影響が出ている様子がうかがえる。

また、同日に発表された 8 月の消費者物価は前年同月比+7.0%となり、前月（同+6.7%）から加速して 2 ヶ月ぶりに 7%を上回る伸びとなり、8 ヶ月連続で中銀（インド準備銀行）の定めるインフレ目標（ $4 \pm 2\%$ ）の上限を上回る推移が続いている。前月比も+0.52%と前月（同+0.46%）から上昇ペースが加速しており、国際原油価格の調整の動きなどを反映してエネルギー価格は下落している一方、食料品価格は上昇基調が続くなど、生活必需品を巡る物価の動きはまちまちの状況にある。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+5.84%と前月（同+5.78%）から伸びが加速し

ているものの、3ヶ月連続でインフレ目標の範囲内で推移している。前月比は+0.50%と前月（同+0.56%）からペースこそ鈍化するも上昇が続いており、エネルギー価格の上昇に伴う輸送コストの上振れに加え、国際金融市場における通貨ルピー安の進展を受けた輸入物価の押し上げも重なり幅広く財価格が上昇しているほか、感染一服による経済活動の正常化の進展を反映して幅広くサービス物価も上昇が続くなど、全般的にインフレ圧力が強まっている様子がうかがえる。

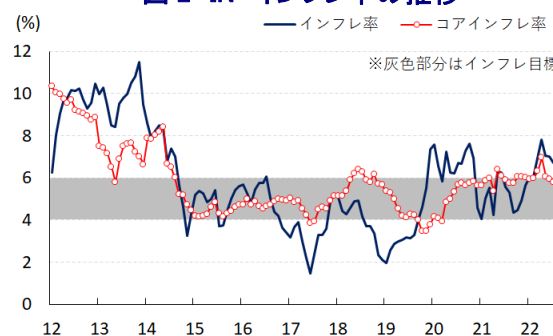
14日に発表された8月の輸出額は前年同月比+1.6%となり、前月（同+2.1%）から伸びが一段と鈍化している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比も2ヶ月連続で減少している上、中期的な基調も減少傾向に転じるなど頭打ちの動きを強めている。財別では、機械製品関連や石油製品関連、宝飾品関連のほか、農産品など幅広い財で輸出額が下振れしており、世界経済の減速懸念の高まりが輸出の重石となっている様子がうかがえる。一方の輸入額は前年同月比+37.3%と前月（同+43.6%）から鈍化するも、引き続き高い伸びが続いている。前月比は2ヶ月連続で減少しているものの、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど輸出とは対照的な動きが続いている。財別では、機械製品関連の輸入に堅調な動きがみられる一方、国際原油価格の調整の動きやロシア産原油に対する割引価格も影響して原油関連の輸入額は下振れしているほか、農薬をはじめとする化学製品関連の輸入額にも下押し圧力が掛かっている。結果、貿易収支は▲279.80億ドルと前月（▲299.99億ドル）から赤字幅が縮小している。

図1 IN 鉱工業生産の推移



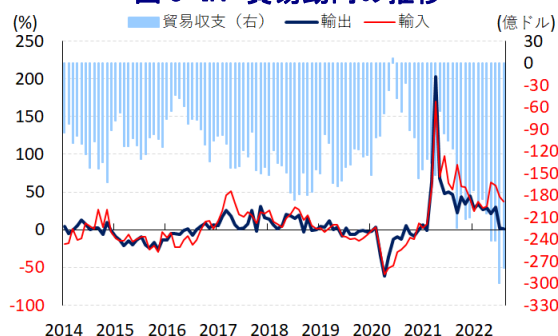
(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

図2 IN インフレ率の推移



(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

図3 IN 貿易動向の推移



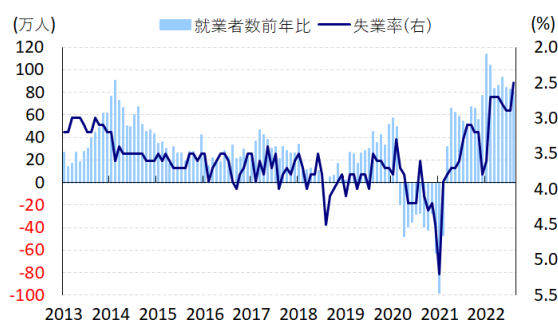
(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

[韓国]～8月の失業率は統計開始以来最低となるも、その背景には労働市場への参加意欲の後退が影響～

16日に発表された8月の失業率（季調済）は2.5%となり、前月（2.9%）から0.4pt改善して1999年6月の統計開始以来最も低い水準となった。失業者数は前月比▲13.1万人と前月（同+2.0万人）か

ら5ヶ月ぶりの減少に転じており、年代別でもすべての年代で減少が確認されている上、中期的な基調も減少傾向に転じるなど頭打ちの動きを強めている。一方の雇用者数は前月比+2.2万人と前月（同+1.9万人）から2ヶ月連続で拡大しており、年代別では30代で拡大している一方、20代や40代などを中心に減少が続くなど年代ごとにバラつきがみられる。雇用形態別でも、正規雇用に底堅い動きがみられる一方で非正規雇用を中心に調整の動きが強まるなど、雇用を取り巻く環境が厳しさを増す兆候がうかがえる。また、労働力人口は前月比▲1.1万人と前月（同+0.4万人）から2ヶ月ぶりの減少に転じており、年代別では20代や40代、50代のほか、60代以上の高齢層など幅広い年代で減少するなど、雇用環境が厳しさを増していることを反映する動きがみられる。この動きを反映して非労働力人口は前月比+12.1万人と前月（同▲3.0万人）から2ヶ月ぶりの拡大に転じており、年代別でも20代のほか、40代や50代、60代以上の高齢層を中心に労働市場からの退出の動きが強まっている様子がうかがえる。結果、労働参加率は63.9%と前月（64.1%）から▲0.2pt低下しており、雇用を取り巻く状況は表面的な失業率の改善が示すような改善とは異なると捉えられる。なお、10代及び20代の若年層を対象とする8月の失業率は6.3%と前月（6.8%）から0.5pt改善しているものの、労働参加率は49.9%と前月（50.2%）から▲0.3pt低下するなど労働市場への参加意欲の後退を示唆する動きがみられるなど、依然として雇用を取り巻く環境は厳しい状況が続いていると捉えられる。

図4 KR 雇用環境の推移

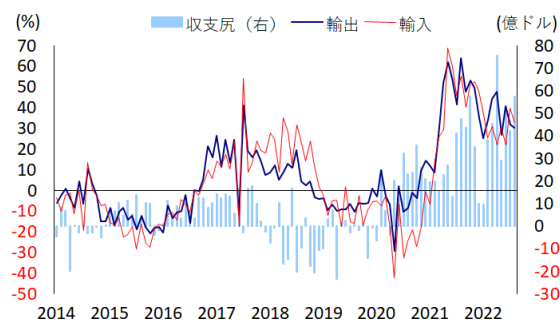


（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

[インドネシア]～世界経済の減速懸念にも拘らず輸出入ともに堅調に推移、貿易収支は黒字基調が続く～

15日に発表された8月の輸出額は前年同月比+30.15%となり、前月（同+31.98%）から鈍化するも依然として高い伸びが続いている。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は2ヶ月ぶりの拡大に転じている上、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど堅調な動きが続いている。原油や石油製品、天然ガス関連の輸出が堅調な推移をみせているほか、製造業関連や鉱業関連、農産品関連など幅広い財で輸出額が拡大しており、世界経済の減速懸念が高まっているにも拘らず底堅い動きが続いている。一方の輸入額は前年同月比+32.81%となり、前月（同+39.85%）から鈍化するも輸出同様に高い伸びが続いている。前月比は4ヶ月連続で拡大している上、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど輸出同様に堅調な動きが続いている。国際原油価格の頭打ちの動きを反映して原油及び石油製品関連の輸入額に下押し圧力が掛かる一方、天然ガスの輸入額は大きく拡大しているほか、輸出や内需の堅調さを反映して製造業関連などを中心とする輸入も底堅く推移して輸入額全体を押し上げている。結果、貿易収支は+57.57億ドルと前月（+42.18億ドル）から黒字幅が拡大している。

図 5 ID 貿易動向の推移

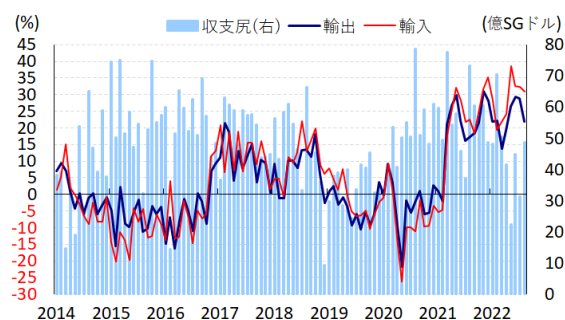


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[シンガポール]～原油など商品市況の調整の動きに加え、世界経済を巡る不透明感は輸出入双方の重石に～

16日に発表された8月の非石油輸出額は前年同月比+11.4%となり、前月（同+7.0%）から伸びが加速した。ただし、前月比は▲3.92%と前月（同+1.36%）から4ヶ月ぶりの減少に転じている上、中期的な基調も減少傾向で推移するなど前年比の伸びとは対照的に頭打ちの様相を強めている。半導体をはじめとする電子部品関連や機械関連などの輸出に底堅い動きがみられるものの、医薬品をはじめとする化学製品関連の輸出が下振れしていることが重石になっているとみられる。また、石油関連を併せた8月の総輸出額は前年同月比+21.8%と前月（同+28.8%）から伸びが鈍化しており、前月比も▲6.4%と前月（同+2.1%）から減少に転じるなど、国際原油市況の調整の動きも輸出額の下押し圧力に繋がっている。一方の輸入額は前年同月比+30.9%となり、前月（同+32.4%）から伸びが鈍化している。前月比も▲7.2%と前月（同+3.8%）から6ヶ月ぶりの減少に転じており、原油をはじめとする国際商品市況の調整の動きに加え、足下の輸出に下押し圧力が掛かるなかで素材及び部材などに対する需要が下振れしていることも輸入の足かせとなっている。結果、貿易収支は+48.82億SGドルと前月（+31.23億SGドル）から黒字幅が拡大している。

図 6 SG 貿易動向の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以 上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。